フォレストサポーターズ

いまの日本の環境を救えるのは、森だと思う。

美しい森林づくり全国推進会議

構成団体の取組

京都議定書で日本が温室効果ガスの削減を約束した6%の
約3分の2にあたる3.8%は、
国内の森林で吸収しなければなりません。

美しい森林づくり推進国民運動

「美しい森林づくり推進国民運動」の目的

「京都議定書」の数値目標の達成を目指す

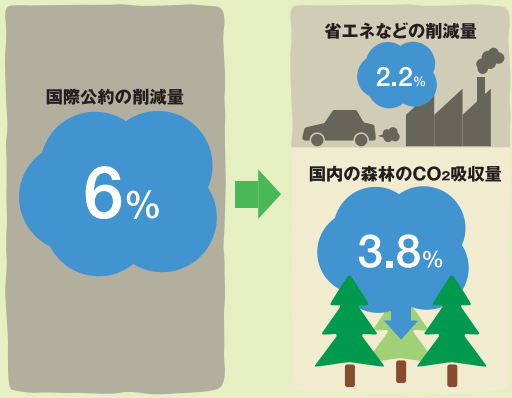
私たちが暮らす日本の国土の約7割が森林です。森林は、豊かな水や生態系を育み、日本の環境を支えてきました。

また、平成9年に採択された「京都議定書」で、我が国は、第1約束期間（平成20～24年）に、平成2年比で温室効果ガスの総排出量を6%削減することを国際的に約束しました。

これを受けて、政府は「京都議定書目標達成計画」を策定し、「京都議定書」の削減目標6%のうちの約3分の2にあたる3.8%（1,300万炭素トン）を国内の森林による二酸化炭素吸収によって確保することを定めました。

「京都議定書」の目標を達成するためには、省エネなどによる排出抑制とともに、森林による吸収量を確保していくことが必要です。

CO_2吸収における森林の重要性



森の循環を形成し、“元気な森”を育てる

しかし、我が国の森林は、林業の採算性の悪化や山村の過疎化などにより手入れが行き届かなくなり、森林の「植える－育てる－収穫する」という循環がくずれ、森林のチカラが弱まっています。このままでは「京都議定書」の森林吸収目標の達成が危ぶまれるだけでなく、かけがえのない森林の機能の低下が危ぶまれています。

我が国の森林の本来のチカラを取り戻すためには、手入れを必要とする多くの森林に人が積極的に関わり、育てなければならないのです。

かけがえのない森林を守り育て、二酸化炭素吸収量を確保するためには、多くの人々が森林づくりに参加し、間伐材などの木材を生活の中で活かし、林業や山村を活性化させ、「植える→育てる→収穫する→上手に使う」という「森の循環」を取り戻すことが必要です。

そうなれば、日本の森林は“元気な森”に生まれ変わります。

理想的な森林づくりのサイクル

森林の多面的機能を発揮するには手入れが必要

間伐されずに
日光がさえぎられ
荒れた森林

間伐され、
いきいきした森林

健全な森林をつくり出すことで、
豊かな水や生態系を育み、国土を守ることにつながります。

「美しい森林づくり全国推進会議」ホームページ 情報発信中!
http://www.b-forest.org

「美しい森林づくり全国推進会議」の活動レポートや、構成団体による「美しい森林づくり」に向けた取組、地方推進組織による取組紹介等は、「美しい森林づくり全国推進会議」ホームページをご参照下さい。

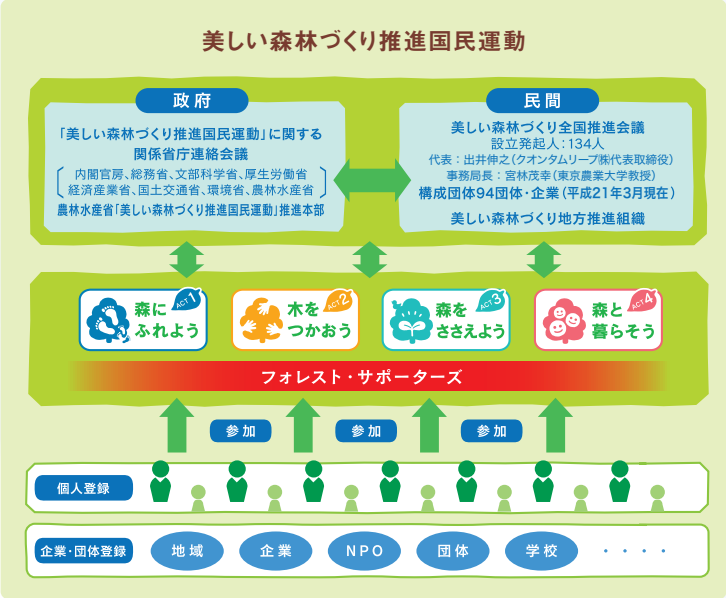
「美しい森林づくり全国推進会議」の取組

「美しい森林づくり推進国民運動」の推進体制

かけがえのない森林を守り育て、地球温暖化の防止にも貢献し、次の世代に美しいみどりを伝えていくために、平成19年2月に、「美しい森林づくり推進国民運動」が始まりました。同年6月には、民間主導による「美しい森林づくり全国推進会議」が設立されるとともに、全国各地で美しい森林づくり地方推進組織の設立が始まり、官民一体となった国民運動が展開されています。

この運動では、平成19年からの6年間で300万haの間伐の実施（京都議定書森林吸収目標の達成）と100年先を見据えた多様な森林づくりを目標に、林業にたずさわる人や山村に住む人だけでなく、都市に住む人々や企業等も参加しながら、森林に適切な手入れを行うことはもちろん、間伐材等の木材を生活の中で活かすこと、山村を活き活きとした地域に再生することなど、「美しい森林づくり」にむけた取組を進めています。

また、平成20年からは「美しい森林づくり推進国民運動」を全国各地で幅広く展開していくために、森のための4つのアクションへの参加を呼びかける「フォレスト・サポーターズ」が始まっており、「フォレスト・サポーターズ」とも連携しながら、多彩な方面から森林づくりの輪をさらに広めています。



「成長」をキーワードとした時代を経て「文化の成熟」に向かって進んでいこう

美しい森林づくりを支える「美しい森林づくり全国推進会議」
出井伸之代表（クオンタムリーブ(株)代表取締役）
出井伸之（いでい のぶゆき）
昭和12年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。
35年ソニー株式会社に入社。オーディオ事業部長、ホームビデオ事業本部長、常務取締役などを経て平成7年代表取締役社長に就任。会長兼グループCEOなど10年にわたりソニートップを歴任、17年から19年まで最高顧問。現在はアドバイザリーボード議長。18年9月クオンタムリーブ社を設立し、代表取締役に就任。

「美しい森林づくり全国推進会議」の活動内容

「美しい森林づくり全国推進会議」は、①先人が子孫のために営々と積み重ねてきた森林づくりを私達の世代がしっかりと受け止め、②地球の温暖化を防ぎ、清らかな水を育み、私達の暮らしを災害から守り、多様な生き物が住む美しい森林づくりを進め、これを次の世代に引き継ぐことを目的に設立されました。

本会議は、「美しい森林づくりのための行動宣言」（裏表紙参照）のもと、健全な「森の循環」を取り戻していけるように、構成団体とともに①里山整備、森林環境教育、生物多様性の保全等の取組、②企業やNPO等のボランティアによる森林づくり活動、③国産材利用の推進や国産材製品を取り入れたライフスタイルの拡大、④森林づくりを担う人材の確保や山村地域の活性化を図る取組等を分野横断的に推進することを通じて、社会一般の方々に森林づくりの輪を広げていくための情報発信や交流促進に取り組んでいきます。

「美しい森林づくり全国推進会議」の主な取組

平成19年6月1日	▶第1回「美しい森林づくり全国推進会議」	東京都千代田区
平成19年6月1日	▶「美しい森林づくり全国推進会議」と政府との意見交換会	東京都千代田区
平成19年12月14日	▶「美しい森林づくり推進組織」代表者会議	東京都港区
平成20年6月27日	▶「美しい森林づくりシンポジウム」 ～パートナーシップで進める森林づくり～	東京都千代田区
平成20年6月27日	▶第2回「美しい森林づくり全国推進会議」	東京都千代田区
平成20年11月28日	▶「美しい森林づくり」 企業・NPO等交流フォーラム	東京都世田谷区
平成20年 12月11～13日	▶エコプロダクツ2008 「美しい森林づくり」スタンプラリー	東京都江東区
平成20年12月13日	▶低炭素社会へ向かう 「美しい森林づくり」リレートーク ～パートナーシップで進める森林づくり～	東京都江東区
平成21年 3月5日～12日	▶フォレスト・サポーターズ・ウィーク 「美しい森林づくり」展	東京都港区
平成21年3月7日	▶「フォレスト・サポーターズ」 記者会見・スペシャル対談	東京都港区

※この他、環境関連イベントにおけるブースの出展や、構成団体等が行う森林づくり活動の後援など、本運動の普及を中心に、様々な活動を行っています。

構成団体による「美しい森林（もり）づくり」取組

社団法人 ガールスカウト日本連盟

野外活動を通して自然と共生するプログラムを展開

日本のガールスカウトの活動には、「自己開発」、「人とのまじわり」、「自然とともに」という3つのポイントがあります。3つ目に「自然とともに」とあるように、キャンプやハイキングなどの野外活動を行うガールスカウトにとって、自然や森林は切っても切れない関係です。野外活動を通して、生命や自然の大切さを身近に感じ、その中で自分がどうするべきかを考えます。

各地域で団ごとに活発に展開されるプログラム

緑の募金活動や森林保全活動などさまざまな活動に取り組んでいます。プログラムの内容は各都道府県支部や団に任されており、全国でさまざまな取組があります。これらの活動は何十年も前から日常的な活動として取り組んできたことで、一過性ではなく長く続けることがガールスカウトの特徴です。

民間企業やNPO団体などとの連携を強めるチャンスに

「美しい森林づくり全国推進会議」に参加することで活動内容が大きく変わることはありませんが、日本の森林が社会でどういう位置づけなのかを確認し、ガールスカウトとして取り組む意義を見つめ直すきっかけになりました。今後、CSRで新しい活動を始めようと考えられている企業やNPO団体などとお互いにメリットのある関係を築き、活動の幅が広がるようにますます連携を強めていきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成19年9月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 ガールスカウト日本連盟

「自ら考え、行動できる女性」の育成をめざし、少女や若い女性に成長の場を提供する社会教育団体。全世界で約1000万人、国内では約5万人の会員が活動している。平成22年に日本でガールスカウトが誕生して90周年を迎える。

【問い合わせ】〒151-0066 東京都渋谷区西原1-40-3　TEL:03-3460-0701　FAX:03-3460-8383
E-mail:gsj@girlscout.or.jp　http://www.girlscout.or.jp/

【取組】全国展開

全国で行われる緑の募金活動

各地域の都道府県緑化推進委員会と連携しながら、春と秋の募金月間を中心に、街頭で緑の募金への協力を呼びかける活動を行っています。

▲毎年5月に行われる「みどりの感謝祭」での募金活動の様子

【取組】地域での展開など

「スカウトの森」づくり

東京都支部では、昭和45年より「スカウトの森」づくりを行い、現在4つの森を管理、育成しています。地球温暖化防止など環境問題に関心を持ち活動していけるよう、平成14年より毎年、下刈り、枝打ち、間伐等の森づくり体験事業を行っています。参加者は毎年130名以上にのぼります。

▲鎌を使った下刈り作業

財団法人 休暇村協会

自然や文化、歴史に触れる保健休養施設

休暇村の目的は、自然のやすらぎや人と人とのふれあいの場を提供することにあります。国立・国定公園内の美しい自然環境の中に立地する休暇村は、設立当初より、森林を舞台にしたさまざまな体験プログラムをはじめ、周辺の自然、歴史、産業などに触れていただく機会を提供してきました。

より自然や地域性に特化したプログラムの提供

地域の自然、歴史、文化に触れる機会の提供を「ふれあいプログラム」と位置づけて、提供しています。豊かな森林とそこで暮らす野生生物、森林と生活、産業、文化との関連性など、提供するプログラムの内容は多岐にわたります。青少年向けの環境体験学習旅行にも力を入れています。

森林を含めた自然への恩恵に“気づく”きっかけに

休暇村への来訪者は、自然に興味がある場合だけでなく、あまり関心がないという来訪者も含まれます。休暇村を利用することで、はじめて自然の恩恵に気づくような働きかけを積極的に行っていくことが、「美しい森林づくり全国推進会議」参加団体の中で、休暇村に求められている役割と考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年2月号より抜粋、加筆・編集

財団法人 休暇村協会

昭和36年、国民の保健休養施設として設立。自然のやすらぎや人とのふれあいを提供する場として、全国の国定・国立公園内に36カ所の宿泊施設を設けている。

【問い合わせ】総務部　〒110-8601 東京都台東区東上野5-24-8 住友不動産上野ビル6号館10階
TEL:03-3845-8651　E-mail:kurotaki@qkamura.or.jp　http://www.qkamura.or.jp

【取組】全国展開

森林へのいざないプログラム

休暇村には必ず自然歩道が整備されてあり、朝食前に周辺の公園内を解説しながら案内する「朝の散歩会」を全村で実施しています。平成19年は延べ55,000人の方にご参加いただきました。最近は、森林セラピーやネイチャーゲームの要素を採り入れたプログラムの開発などが各休暇村より報告されています。

▲朝の散歩会（休暇村富士）

【取組】地域での展開など

地域の特色を生かしたプログラム

休暇村讃岐五色台では、香川県と連携し、毎月一回森づくり・クラフト活動（「五色台自然楽校」）などを行っています。

▲子どもたちもクラフトや巣箱づくりに挑戦（休暇村讃岐五色台）

紹介

財団法人 国立公園協会

美しい森林は美しい心を育てる

近年は国立公園の自然環境も損なわれつつあるため、国立公園保全活動ボランティア隊を立ち上げました。自然と触れ合いながら楽しく国立公園を守る国民参加型の保全活動を目指しています。美しい森林は美しい心を育てることにもつながります。自然の素晴らしさに気づき、自然に関心を持つ人をひとりでも増やしていきたいものです。

自然公園・自然環境を守る普及啓発

自然公園をはじめとする自然環境の調査研究や普及啓発、自然公園関係の図書刊行などの活動をしています。具体的には、機関誌『國立公園』の発行、子どもたち向けの「自然は友だち　わたしの自然観察路コンクール」開催、「国立公園フェア」での自然公園を啓発するPRテントの設置、「自然公園ふれあい全国大会」共催などを行っています。

ボランティアによる国立公園保全活動の強化

シンポジウム「国立公園保全活動へのボランティア参加を考える～より多くの参加を得るために～」で出された意見を活かし、今後は、シニア向けのワーキングホリデー的なプログラムや学生に向けてのインターンシップ的なプログラムを展開することも考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年7月号より抜粋、加筆・編集

財団法人 国立公園協会

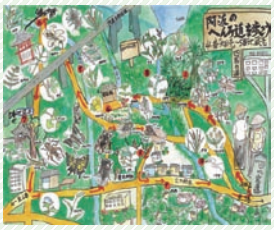
昭和4年に正式に国立公園協会として発足し、昭和25年に財団法人となる。国立公園法が制定されてから77年。
(財)国立公園協会は長年にわたって自然公園・自然環境保全の普及啓発に取り組んでいる。

[問い合わせ] 事業課　〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎の門電気ビル4階　TEL:03-3502-0488
FAX:03-3502-1377　E-mail:mail@npaj.or.jp　http://www.npaj.or.jp/

【取組】全国展開

「自然は友だち 私の自然観察路コンクール」

全国の小・中・高校生を対象に身近な自然が観察できる小道を絵地図と自然観察の解説文を書いて応募してもらうコンクールを行っています。通学路や公園などで子どもたちの目を通して自然の素晴らしさに気づいてもらうのがねらいです。



◀第25回小学生の部 最優秀賞作品

【取組】全国展開

国立公園保全活動ボランティア隊

ボランティアを募り、各地の国立公園の保全活動を支援します。第1回目には日光国立公園湯元地区で外来植物のオオハンゴンソウの除去活動を行い、第2回目には上信越高原国立公園鹿沢地区でレンゲツツジ群落の保全活動を実施しました。

▲レンゲツツジ保全活動

社団法人 女子プロゴルフ協会

ゴルフを通じて緑化推進に役立ちたい

ゴルフ場は、コースを造成する際に、一度森林を伐採しますが、その後は植樹をしつつ、長年にわたって周辺の森林の維持・管理を進めています。その為、大都市近郊では、周辺が宅地開発等によって緑地や里山が失われていく中で、ゴルフ場として管理されることによって、貴重な地域の緑を残していく役割を果たしています。

そこで、ゴルフ場を活かして、地域の方々や子どもたちが身近な自然に触れ、学ぶ機会を提供することで、緑化の推進に向けて社会に還元したいと考えています。

幅広く社会に緑化の推進や緑の募金の呼びかけ

全国植樹祭や全国育樹祭、みどりの感謝祭などの緑化行事に参加したり、普段のトーナメント会場などで、幅広く社会の方々に緑化の推進を呼びかけるとともに、チャリティーレッスンを行ったり、グッズ販売の収益金の一部を緑の募金へ寄付することなどによって、緑化運動を推進しています。

都会の子どもたちが自然に触れる機会を提供

これまでも、一人でも多くの子どもたちが、ゴルフや自然に触れる機会を提供するために、夏休みに全国各地のトーナメント会場で体験教室を開催しています。普段、都会に住んでいる子どもたちにとっては、一定の管理がなされたゴルフ場の中で、安心して、かつ楽しく豊かな自然に触れる機会となっており、今後もこのような活動を続けていきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年4月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 女子プロゴルフ協会

昭和42年に創立。会員数は833人。女子プロゴルファーの資格の認定、女子プロゴルフ指導者の養成及び資質の向上、ゴルフの技術・ルール及びマナーに関する調査・研究・指導、女子プロゴルファーによる試合の開催及び後援、ゴルフ用品の品質適性に関する検査・証明及び推薦などの事業を行っている。

[問い合わせ] 〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル8階　TEL:03-3546-7801　http://www.lpga.or.jp/

【取組】全国展開

全国各地で行われる「キッズゴルフデー」

毎年夏休みには、全国各地のトーナメント会場で、4～12歳を対象にゴルフ体験教室を開催して、子どもたちが自然に触れ、親しむ機会を提供しています。

▲(左)女子プロゴルファーが丁寧に指導、(右)コースに出た子どもたちはコースの雄大さに感動

【取組】全国展開

緑化の推進と緑の募金に貢献

毎年「みどりの感謝祭」に出展して、女子プロゴルファー等によるチャリティーレッスンを実施しながら、緑の募金を呼びかけています。また、グッズ販売の収益金の一部を緑の募金に寄付することで、幅広く社会に緑化の推進を呼びかけています。

▲「みどりの感謝祭」でのチャリティーレッスン

1つ1つの活動がつながれば、森をささえる大きなチカ

社団法人 住宅生産団体連合会

長期優良住宅の普及により住宅の長寿命化を図る

住宅の長寿命化は住宅供給を担う者にとっても住まわれる人にとっても避けて通れない究極の課題で、社団法人住宅生産団体連合会は関係者と連携をとりながらそのテーマに取り組んでいます。構成団体のひとつである社団法人日本木造住宅産業協会（木住協）は、「環境行動計画」の中で樹木の計画的な伐採と植林、その木材を使った木造軸組住宅の建設が環境負荷低減に貢献するとしています。

地球にとってもやさしい木の家

木住協では、会員に対し「環境行動に関する調査」を毎年実施し、その調査項目の中に国産材に対する意識啓発を目的とした国産材の利用調査を行なっています。また、小学生に対し温室効果ガスを減らす森のはたらきと木材の利用を判りやすくイラストで解説した『地球にとってもやさしい木の家』という冊子を発行しています。

国産材の利用と安定供給を後押し

国産材が使われない理由として、①高価格、②供給が不安定ということがあげられますが、最近は積極的に自社の住宅に国産材を採用する企業が増えています。例えば、熊本県の新産住拓株式会社では、独自の安定供給システムを構築し、SGEC（緑の循環認証会議）の認定企業となりました。今後、こういった企業が増えていくことを後押ししたいです。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年12月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 住宅生産団体連合会

住宅に関する調査・研究・提言・国際交流・情報提供を行う団体で、平成4年6月に発足。低層住宅を建設する団体が中心ではあるものの、中高層住宅から住宅設備機器類関連にいたるまで、幅広い団体（10団体）で構成されている。

［問い合わせ］〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-6-6 晩翠軒ビル4階
TEL:03-3592-6441　http://www.judanren.or.jp/

【取組】全国展開

「木の家・こんな家に住みたい」作文コンクール

木住協が定めた「木造住宅の日」のイベントとして、全国の小学生を対象に作文コンクールを実施しています。平成19年は海外の日本人学校を始め46都道府県の小学生より14,003点と過去最高の応募がありました。

▲表彰式の様子（農林水産大臣賞の授与）

【取組】地域での展開など

森のふれあい探検隊

木住協の九州支部では、「森のふれあい探検隊」として間伐・植林を一般公募の方と一緒に毎年、取り組んでいます。現在、協会の本部でも同様の計画を検討しています。

▲福岡県で開催した「森のふれあい探検隊」には180名が参加

全国漁業協同組合連合会

豊かな森が豊かな海をはぐくむ「漁民の森づくり」

江戸時代から続いてきた魚つき林(※魚介類の生息、育成に影響をもたらす森林のこと)に加え、近年では森、川、海のつながりの重要性が認識され、漁業者による「漁民の森づくり」が盛んになっています。中でも、カキ養殖漁場の上流に落葉広葉樹の森をつくるという「牡蠣の森を慕う会」の活動が全国的に有名となりました。

全国漁民の森サミット

「川の流域に暮らす人々と価値観を共有しなければ、きれいな海は帰ってこない」という「牡蠣の森を慕う会」の考え方や運動は全国の漁業者に浸透し、平成10年2月に「全国漁民の森サミット」を開催しました。その結果、全国各地で漁業者による植樹活動が広がっていき、全国28道県で漁業者による植樹活動が展開されています。

地域ぐるみの植樹活動へ

漁業者による植樹活動は漁業者自身の漁場を守る運動ではあるものの、同時に、河川の流域や沿岸域の侵食防止や土砂崩壊防止、河川環境や海域環境の改善を通じたアメニティの向上、生物多様性の確保など、直接国民に対するメリットをもたらしています。また、地域の人々を啓発し、地域ぐるみの植樹活動へと発展するきっかけになっていると思います。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年10月号より抜粋、加筆・編集

全国漁業協同組合連合会

全国のJF（漁協）や連合会とともに、協同して組合員の漁業経営と生活を守り、そして青く美しい海と豊かな海の幸を次の世代まで受け継ぐためさまざまな活動を展開。よりよい地域社会を築くこと、そして組合員の経済的、社会的地位を高めることを目的としている。

［問い合わせ］〒101-8503　東京都千代田区内神田1-1-12　コープビル7階
TEL:03-3294-9613　http://www.zengyoren.or.jp/

【取組】地域での展開など

「牡蠣の森を慕う会」の活動

優れた養殖漁場である気仙沼湾も、かつては赤潮が発生し、カキ養殖に被害が出ていました。豊かな森が豊かな海を育てます。この会では、平成元年から植樹祭を行い、これまでに約3万本の落葉広葉樹を大川上流の室根山に植えました。

◀植樹祭の様子

【取組】地域での展開など

「道民の森」の「漁民の森」づくり

「北海道漁協女性部連絡協議会」では11年前から北海道と協力をして、「道民の森」(※北海道所有の森林総合利用施設) の中に「漁民の森」を作り、毎年、漁師の奥さんが中心となって、ミズナラ等の苗木を植えています。

▲「北海道漁協女性部連絡協議会」のメンバー

社団法人 全国子ども会連合会

募金活動と森林づくり活動を通して森林に対する意識が高まる

全国子ども会連合会では、子どもの心身の成長発達を促すために、地域で自然に触れたり学ぶ活動を進めていますが、森林づくりについて考える機会を設けるとともに、子どもたちに森林づくりの意識付けをする観点から、募金活動を行っています。さらに、木を大事にしようという気持ちを芽生えさせ、森林に対する意識が高まっていけるように、自分たちの手で木を植える活動も推進しています。

「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト」の実施

全国で子どもたちによる森林づくり等がさらに広がっていくことを目指して、平成18年から、ノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんが名誉会長を務める「MOTTAINAIキャンペーン」の一環として、(社)国土緑化推進機構・毎日新聞社と連携し「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト」を実施しています。

子どもたちに正しい森林の守り方・育て方を伝える

これまで連合会では、各地で森林づくりや募金活動を行ってきましたが、「美しい森林づくり全国推進会議」に参加することで、木は植えるだけではなく、適切に利用する必要があることの重要性を再認識し、木のありがたさを感じながら、正しい森林の守り方や育て方を子どもたちに伝えていきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年3月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 全国子ども会連合会

子ども会は、異年齢の集団による仲間活動、特に子どもの遊びの特徴をとらえた活動をすすめ、社会の一員として必要な知識、技能、態度を学ぶとともに、健全な仲間づくりをすすめ、子どもの心身の成長発達を促すために、地域を基盤としてつくられた。当連合会は全国に点在する子ども会の活動を助成するなどの取組を行っている。

[問い合わせ] 〒112-0012 東京都文京区大塚6-1-14 全国子ども会ビル
TEL:03-5319-1741(代) FAX:03-5319-1744 http://www.kodomo-kai.or.jp

【取組】全国展開

「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト」

全国各地で、地域の「子ども会」の子どもたちが集い、植林をはじめとしたさまざまな森林づくり活動を、地域と交流を深めながら進めています。平成18年から19年の2年間で全国で22回の植林活動を行ってきました。

▲秋田県美郷町での記念植樹におけるマータイさんの挨拶

【取組】全国展開

「MOTTAINAI 緑の募金」の呼びかけ

「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト」では、マータイさんの植林活動「グリーンベルト運動」と国内の森林づくりを促進する「緑の募金」に寄付する「MOTTAINAI 緑の募金」を呼びかけています。募金箱は、再生紙とペットボトルで作成し、子どもたち自身も募金をしています。

◀鮮やかにパッケージされたペットボトルの募金箱

社団法人 全日本トラック協会

いかに地球温暖化対策に貢献できるかが課題

全日本トラック協会は交通安全対策と環境保全対策の二つを大きな軸に、取り組むべき事業を進め、社会貢献活動として自然災害時の緊急物資の輸送、そしてCO_2の吸収源である森林を育てることを設定しています。作業効率を高め排出ガス量を減らすとともに、いかに地球温暖化対策に貢献できるかを視点に具体的な事業を進めています。

全国で「トラックの森」づくり活動を展開

毎年、「全国トラック運送事業者大会」の開催地域付近に「トラックの森」を設定し、(社)国土緑化推進機構の協力のもと、地域のボランティアと一緒に森林づくりを行っています。この活動により、会員事業者の環境に対する意識や森林の重要性に対する認識の向上などの効果を期待しています。

「トラックの森」づくりで環境に対する取組をPR

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体として他団体の活動を参考にし、各地方のトラック協会と連携をとりながら、森林の保全・管理をはじめとする活動を進めていきます。また、一般の方に対しても、トラック事業者が環境問題を少しでも解決しようと努力していることをPRする効果も期待しています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年1月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 全日本トラック協会

昭和23年、「日本トラック協会」が発足し、昭和29年に社団法人化。昭和44年、日本トラック協会と全国陸運貨物協会、全国貨物運送事業組合連合会が一本化し、「社団法人 全日本トラック協会」が発足する。各都道府県のトラック協会の中央団体として活動し、よりよい輸送サービスの提供に努めている。

[問い合わせ] 交通・環境部 〒163-1519 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー19階
TEL:03-5323-7243 http://www.jta.or.jp/

【取組】全国展開

「トラックの森」づくり事業

全国のトラック事業者を対象にした「全国トラック運送事業者大会」の開催と併せて、「トラックの森」づくりとして植樹活動を実施しています。

▲平成18年度は新潟県新潟市の日本海東北自動車道「豊栄SA」の上下線で、平成19年度は岡山県瀬戸内市の「長船美しい森」内で植林活動を実施

【取組】地域での展開など

各都道府県での「トラックの森」づくり

都道府県のトラック協会でも独自に「トラックの森」植樹事業を行っています(平成19年末現在19ヵ所)。椎茸の植菌体験コーナーや子どもも参加するなど工夫し、着実に環境意識の高まりを広げています。

▲山形県トラック協会で行われた「山形県トラックの森づくり」の様子(木工教室)

いまの日本の環境を救えるのは、森だと思う。—

社団法人 日本環境教育フォーラム

高まっている環境問題への関心に応える

近年、余暇を利用して森林と触れあう機会は確実に増え、環境問題に対する関心も大きな高まりを見せています。でも、どうしてもボランティア活動から逸脱していない部分があります。日本環境フォーラムは“環境教育のコンサルタント”としてそれを生業にし、多くの方々に情報や知識等を発信していく役目があります。

“環境教育のコンサルタント”としての役割

活動の一つ目の柱は、自然体験活動を通して学び、環境問題をどう解決していくのかを考える場である「自然学校」の普及です。二つ目は環境教育の普及で、近年、企業が盛んに行っているCSR活動への協力をはじめ、みなさんに環境教育について提唱しています。三つ目は国際関係事業で、人材交流、情報の共有化を進めています。

分野を越えた活動をつなげていきたい

環境問題も「美しい森林づくり」も、行政や企業、NGO団体などが一緒になってどういう取り組みを行うべきか考える動きがなければ解決できない問題です。

しかしながら、それぞれの分野に精通した指導者はいても、それらの分野をつなぎ、方向性を示す人はいません。私たちは今まで他の分野の方々と分け隔てなく活動してきた経緯を生かし、いろいろな立場の方々と森林の保全と普及について考えていきたいです。

林野庁情報誌「RINYA」平成19年8月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 日本環境教育フォーラム

昭和62年、環境教育に取り組む人々を集めた第1回清里フォーラムを開催。平成9年には環境省所管となり、社団法人　日本環境教育フォーラムを発足。行政や企業、NGO団体など広い分野との交流や協力を進めながら、環境教育の普及、自然学校の普及、途上国の環境教育支援を柱に、さまざまな活動を展開している。

［問い合わせ］事務局　〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-15 ツインズ新宿ビル4階
TEL:03-3350-6770　FAX:03-3350-7818　http://www.jeef.or.jp/

【取組】全国展開

企業とNPOとの環境教育コラボレーション

自然体験から連続講座まで、各企業の強みを生かし環境を守る人を育てるコラボレーション事業。「NEC森の人づくり講座」では、学生向けにワークショップや森林づくり作業など森林環境教育プログラムを実施し、修了生は500人近くにのぼり、全国各地のフィールドで活躍しています。

▲前期(4泊5日)と後期(1泊2日)の講座
(左)自然解説者インタープリター体験　(右)箸づくり体験

【取組】その他、海外での展開など

国際関係事業 人材交流・情報共有化

東南アジア、特に日本や中国、韓国の環境教育に関わる方との人材交流、情報の共有化を進めています。

▲東アジアの環境教育に携わる方を集めて、ワークショップを開催

社団法人 日本観光協会

地域の森林特性を生かした新たな観光振興の推進

近年は、観光の捉え方や関心が変わり始め、今後の観光は「地域の産業をどうやって観光に生かしていくか」ということが大きな鍵となってきています。

その様な中で、山村地域にある森林環境を生かして、新たな旅行形態としてのニューツーリズム（エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、文化観光など）への注目が高まっており、観光振興を通した地域活性化が期待されています。

森林浴などを組み込んだヘルスツーリズム

山村地域にある豊かな森林を生かしたニューツーリズムとして、近年は森林セラピー等のヘルスツーリズムへの期待が高まっています。メタボリックシンドローム予防に役立つウォーキング等の運動や健康・食事指導、森林の中で呼吸法に関する指導を受けたりするツアーがあり、医学的分野と連携した健康の回復や維持・増進につながる内容になっていることが特徴です。

自然とふれ合う観光で森林のよさを紹介したい

美しい森林は、美しい国土、そして美しい海を作り、豊かな観光やニューツーリズムを提供する基盤にもなります。そのため、観光という面からも、観光やニューツーリズムの商品提供を通して、森林のよさや大切さを紹介したり、森づくりに参加するなどで、美しい森林づくりに貢献できる取組を進めていきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成19年12月号より抜粋、加筆・編集

社団法人 日本観光協会

（社）日本観光協会は、我が国の観光振興に関する中枢機関（ナショナルセンター）として、我が国観光の振興を総合的に図るための各種の事業を行うことにより、地域経済及び観光産業の発展並びに国民の生活及び文化の向上に寄与するとともに、国際親善に資することを目的としている。

［問い合わせ］事業推進グループ国内振興チーム　〒104-0033 東京都中央区新川1-6-1 アステール茅場町4階　TEL:03-6222-2534
FAX:03-6222-2539　E-mail:kokunai@nihon-kankou.or.jp　http://www.nihon-kankou.or.jp/home/

【取組】全国展開

森林を生かしたニューツーリズムの推進

新たなマーケットに対応した効果的な観光地域づくりを推進する観点から、ニューツーリズムの発展に向けた取組を推進しています。平成19年には北海道で森林を生かしたヘルスツーリズムのツアーを実施。健康面のフォロー、食事はもちろん早朝ウォーキングなどを行い、好評を得ました。

◀小川沿いをウォーキング

▶検査も実施

【取組】地域での展開など

森林セラピー等のモデルプランの紹介

全国各地の観光協会等のキャンペーンでは、森林セラピー等のニューツーリズムのモデルツアーが実施されるケースが増えています。

長野県の「信州道楽」キャンペーンでは、複数の「森林セラピー基地」「森林セラピーロード」を巡る健康ツアーのモデルプランが紹介されています。

◀フィトンチットが豊富な木曽ヒノキの天然林での散策（長野県上松町）

日本生活協同組合連合会

1970年代から始まった「消費者参加型」の環境保全の取組

生活協同組合の環境保全の取組は、1970年代の水環境問題や「マイバッグ持参」運動でのレジ袋削減などから始まり、1990年代前後の地球環境問題への関心の高まりとともに広がりました。事業上の環境負荷の低減を進めるだけでなく、組合員が参加するリサイクル運動など、消費者参加型の取組が特徴です。マイバック持参によるレジ袋の削減は年間で約3億枚です。

木づかい・森林づくりなども含めた幅広い森林・環境保全の取組

再生原料使用など環境に配慮したコープ商品（約300品目）の普及を図るとともに、対象商品の販売額1%を（社）国土緑化推進機構等に寄付するなどの「環境キャンペーン」を実施しています。平成20年度は全国で1,000万人が参加する温暖化防止のキャンペーンなど、継続的な取組を続けています。

また、「国産材、使って減らそうCO2『3.9グリーンスタイル』」対象商品の販売、各地での森林づくり活動、「安全・安心な住まいづくり」など食の地産地消と同じく木材も顔が見える関係を大切にした取組を進めています。

組合員だけでなく一般消費者へ広く訴えていきたい

今後も、全国約2,400万人もの組合員の方だけでなく一般消費者の方に、広く、ホームページや新聞等で、森林などの自然や環境の保全を訴えていきたいと考えています。『3.9グリーンスタイル』対象商品などは、これから広がっていく動きが確実に見えています。

日本生活協同組合連合会

略称:日本生協連。日本生協連は、生協の全国連合会で、全国の499の生協が加入しており、総組合員数は約2,400万人。

［問い合わせ］〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ　TEL:03-5778-8105　http://jccu.coop/

【取組】全国展開

全国で『3.9グリーンスタイル』商品の利用拡大

日本生協連と全国各地の生協の「国産材、使って減らそうCO2『3.9グリーンスタイル』」の主な商品には、高知県四万十川流域のヒノキの間伐材を活用した「まな板」などがあります。まな板は販売開始の平成16年度の約1,300枚が平成19年度には6,500枚と、確実に広がりを見せています。

▲ヒノキのまな板

▲『3.9グリーンスタイル』マーク

【取組】地域での展開など

広がる「こ～ぷの森」づくり

みやぎ生活協同組合を中心に、北海道・愛知県など各地で行われている森林づくり活動。みやぎ生活協同組合では平成4年から毎年、クリなどの広葉樹の植林活動、下刈りやツル切りなど、子ども達も参加する活動を行っています。開始当初の植林数2,420本から、平成18年度までに32,695本、約13.21ヘクタールの森になりました。

◀みやぎ生活協同組合「こ～ぷの森」づくり

財団法人 日本鳥類保護連盟

野鳥の保護を通じた自然環境保護への取組

自然環境の保護という観点では森林だけではなく川や海も大切ですが、その中で鳥にとっていちばん重要な生息環境の代表が森林で、日本鳥類保護連盟の課題としては、野鳥が安心して生きられる環境をいかに守って良くしていくかということです。

鳥にとって大切な生息地、森林を守るための普及啓発

活動の基盤は、鳥類を中心とする身近ないきものを保護するための普及啓発です。環境省や各都道府県とともに行っている「全国野鳥保護のつどい」などの他、「愛鳥週間」用のポスター原画コンクールや、森林や水辺などの自然保護の普及と実践活動にも積極的に取り組んでいます。

もっと広く、森林と野鳥の関わりの深さを知ってもらいたい

「美しい森林づくり全国推進会議」に参加してからは、機関誌「私たちの自然」で"野鳥のための森林づくり"という特集を組み、『森林づくりは野鳥の生息環境づくりである』ことを訴えかけました。今後も鳥類に限らず昆虫など身近ないきものに関する情報を掲載し、森林と野鳥の関わりの深さについて多く方に知っていただけるよう、普及啓発を推進していく考えです。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年5月号より抜粋、加筆・編集

財団法人 日本鳥類保護連盟

昭和22年に発足した「日本鳥類保護連盟」は昭和37年に常陸宮殿下に総裁にご就任いただき、環境省や地方公共団体と連携しつつ、企業や一般の方々のご協力、ご参加のもと、野鳥の保護を通じて自然保護に取り組み、人と自然が共生できる社会を目指している。

［問い合わせ］〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3階
TEL:03-5378-5691　FAX:03-5378-5693　http://www.jspb.org/

【取組】全国展開

「全国野生生物保護実績発表大会」での林野庁長官賞の設定

学校、団体などにおいて児童・生徒が中心となって行われる野生生物保護活動などを発表する場として、毎年「全国野生生物保護実績発表大会」を開催。林野庁長官賞を設けて、鳥類保護を通じた森林環境保全の普及啓発や活動を図っています。

▲「第42回全国野生生物保護実績発表大会」林野庁長官賞受賞の新潟県上越市立明治小学校、兵庫県尾崎市立成良中学校の発表

【取組】地域での展開など

会員等による森林づくり活動への参加・講習

各地で行われる森林づくりに会員等が参加。茨城県では会員である日本ハム株式会社の筑波山での森林づくりの活動で、野鳥の解説や巣箱の設置方法の講習などを行っています。

▲筑波山での森林づくり活動に参加
（上）野鳥の解説
（右）散歩道の整備

伝えたい木の文化、残したい美しい森

日本労働組合総連合会（連合）

森林は豊かな暮らしのために欠かせない社会資本

平成元年の結成以来、労働条件や賃金の向上、組合員の生活の豊かさを求めるための取組みを進めてきました。生活を広い範囲で捉え、社会保障や税制、自然環境、食の安全など、人が生きていく上で大切な問題にも全般的に取組んでいます。連合では2年に一度、国や政府に対する政策提言をまとめていますが、連合結成当初から現在に至るまで、森林保全の重要性を提言し続けてきました。

国内外での森林ボランティア活動・「連合エコライフ21」

平成6年に策定した「労働組合の環境問題への取り組み指針」のなかで、「連合の森づくり」を提唱し、今では植林活動は組織全体に広がり、海外で植林を行う組織もあります。平成10年からは労働組合が自らライフスタイルを見直す取組として「連合エコライフ21」をスタートさせ、そこでも植林活動を重要な取組と位置づけています。平成19年現在、33の地方連合会、11の構成組織で盛んに森づくりが行われています。

RENGO ECO LIFE21

他団体と交流を図りながら本当の“美しい森林”を

抽象的な“美しい森林”だけではなく、森林に関わっていきいきと働くこと。若い人が魅力的だと感じる産業に育てていくこと。この状況をつくることが今、大切です。そのために、従来通りの実務と森林ボランティア活動を行うだけではなく、他団体と積極的に交流を図り、いろいろな方からのアイデアや知恵を借りながら活動に取組んでいきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成19年11月号より抜粋、加筆・編集

日本労働組合総連合会（連合）

平成元年に結成。現在、加盟組合員は680万人。日本の労働組合のナショナル・センターとして、すべての労働者のために雇用と暮らしを守り、豊かさが実感できる公正な社会を目指し取組んでいる。

［問い合わせ］社会政策局　〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館内3階
TEL:03-5295-0522　http://www.jtuc-rengo.or.jp/

【取組】全国展開

定期的な現地視察

森林の現状をふまえた具体的な提言ができるよう、定期的に森林整備の現場や木材工場などを視察しています。

▲間伐作業現場（上）、原木市場（右）への視察

【取組】地域での展開など

地方連合会における「連合の森づくり」の促進

静岡「連合の森」では、平成17・18年の2年間でのべ500人以上が参加し、植林、下草刈り、枝打ち、間伐等の手入れを行いました。

▲連合静岡「連合の森」の植林

財団法人 ボーイスカウト日本連盟

森林は青少年の健全な育成へとつながる教育の場

ボーイスカウトでは、未来を担っていく世代の子どもたちが、自然や人や社会を思いやる気持ちを持って、努力していく大人に成長し、社会に出てもさまざまなことに対応できる免疫力、抵抗力のある身体をつくりあげてほしいと考えています。

そのために、森林をはじめとした自然を舞台に活動を行って、自然に接して、色々なことを学べるような取組を行っています。

「緑の募金」を活かし、木を植え、育てる活動

ボーイスカウトでは、野外活動でさまざまな技能を身につけるための多くの課目の中に、「緑の募金」への協力や「緑の募金」を通した森林づくり活動を位置付けています。スギやヒノキの植林や、広葉樹の森づくりなど、木を植え、育てることによって多くのことを学べる活動を行っています。

「国民運動」への参加を通して、体験の機会を拡げる

子どもたちにとって軸となる教育の場は学校ですが、ボーイスカウトの活動では、身体を使って野外でいろいろなことを体験学習する機会を提供してきました。「美しい森林づくり推進国民運動」に参加することで、各地のボーイスカウトが森林づくり活動等をさらに活発に行い、自然の偉大さを知ってこれを守り、上手に付き合っていくことを学べる機会を拡げていければと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成20年6月号より抜粋、加筆・編集

財団法人 ボーイスカウト日本連盟

大正11年4月13日に創立され、昭和10年7月1日に財団法人に。日本におけるボーイスカウト運動を振興し、青少年の品性の陶冶および国際友愛精神の増進を図り、その健全育成に資することを目的としている。

［問い合わせ］〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
TEL:0422-31-5161　FAX:0422-31-5162　http://www.scout.or.jp/

【取組】全国展開

技能章「森林愛護章」の設定

子どもたちの森林愛護の気持ち育むために、『森林愛護章』を設けています。「植林の経験（新植、間伐、下刈り、手入れのすべて）を有すること」や「用材となる植物10種類以上を知り、その用途を述べること」などの条件のうち、9項目をマスターするとバッジが貰える制度です。

▲間伐実習

▲ターゲットバッジ（森林愛護章）

【取組】地域での展開など

ボーイスカウト神奈川の森

ボーイスカウトでは、各地でそれぞれ地域に根付いた森林づくり活動を行っています。

日本ボーイスカウト神奈川連盟では、県連50周年記念行事として、平成11年に「ボーイスカウト神奈川の森」を設定。スカウトと指導者がともに自然環境保護の大切さを身をもって体験する場として位置付けています。

▲枝打ち・間伐実習

森を育む紙製飲料容器普及協議会

国産材の利用による健全な森林づくりの促進に貢献

ヨーロッパ生まれの紙製飲料容器の「カートカン」は、リサイクル可能で飲料の品質保持期間も長い「環境にやさしい容器」というだけでなく、原料に国産材を30%以上使用しています。そのため、「植える→育てる→収穫する→植える…」という健全な森林づくりの循環を促進し、日本の森林を育むことに貢献するものです。

森を育む紙製飲料容器普及協議会は、カートカンの普及と一体となって、さまざまな場所で日本の健全な森林づくりの普及を行っています。

カートカンのよさを伝えるための普及活動を展開

協議会の総会やレセプションでは、飲料メーカーなどカートカンを通じて日本の森林を育むことに賛同いただいた会員を集め、企業間の垣根を取り払い、日本の森林に関する知識を深めてもらえるような普及活動を行っています。その他、全国植樹祭や育樹祭など環境や森林に関する各種イベントで、カートカンのよさを伝えるための普及活動を展開しています。

3.8%の温室効果ガス削減への貢献を目指して

「美しい森林づくり全国推進会議」への参加を通して、これまで以上に多くの企業や団体の皆さまと手を携えながら、健全な森林づくりの循環の促進に向けた取組を広めていきたいと考えています。その中でカートカンの持つ特性や環境性を幅広く伝えていき、このような活動を通して、2012年に向けた3.8%の温室効果ガス削減に貢献していきたいと考えています。

林野庁情報誌「RINYA」平成19年10月号より抜粋、加筆・編集

森を育む紙製飲料容器普及協議会

平成16年設立。間伐材や端材を有効活用した紙製の飲料容器を普及することにより、森林育成の重要性を国民に伝えることを目的とした協議会。飲料メーカーや関連企業を中心に、賛同する企業などの呼びかけで発足し、各種森林や環境イベントへの参加、講演会などを行っている。

[問い合わせ] 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1
TEL:03-3835-7680　FAX:03-3835-7668　http://www.morikami.jp/

【取組】全国展開

環境・森林イベントでの普及活動

「全国植樹祭」や「全国育樹祭」、「森林の市」や「エコライフフェア」など、環境や森林に関する各種イベントで、カートカンの展示やカートカン飲料の試飲などを通して、日本の健全な森づくりの普及を行っています。

◀ みどりの感謝祭での展示風景

製品化されているおもなカートカン ▶

【取組】全国展開

「緑の募金」とその普及活動

「カートカン」は、原料に国産材を30%以上使用することで、健全な森林づくりの循環を促進していますが、売上の一部を「緑の募金」へ寄付することによっても、森林ボランティア等による健全な森林づくりを促進しています。

▲ 農林水産省7階の自動販売機／日本の森を育む緑の募金マーク例

美しい森林づくり全国推進会議構成団体一覧

(株)アシックス
アルケーウィル(株)
NPO法人アンダンテ21
(株)一条工務店
(株)荏原製作所
(社)ガールスカウト日本連盟
環境NPOオフィス町内会
特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所
(株)キャプティ
(財)休暇村協会
(社)経済同友会
(財)国立公園協会
五城目町
(株)コミュニティデザイン研究所
小諸市
(株)シジシージャパン
(財)自然公園財団
(株)ジャパンエナジー
主婦連合会
(財)食品産業センター
(株)スチール
(株)ズドウ
住田町
住友スリーエム(株)
(社)住宅生産団体連合会
NPO法人 セブンサミッツ持続社会機構
全国漁業協同組合連合会
(社)全国建設業協会
(社)全国子ども会連合会
全国市議会議長会
全国市長会
全国市町村教育委員会連合会
全国知事会
全国町村会
全国町村議会議長会
全国都道府県議会議長会
全国都道府県教育長協議会
全国農業会議所
全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会
全国木繊セメント板協会
(社)全国旅行業協会
泉南の里山を大切にする会
全日本空輸(株)
(社)全日本トラック協会
(社)大日本水産会
(株)高島屋
NPO地球環境市民協議会
特定非営利活動法人地球緑化センター
(社)中央畜産会
(株)テレビ金沢
東京インキ(株)
東京キャンプ協会
東芝テック(株)
(財)都市農山漁村交流活性化機構
中日本高速道路(株)
(株)ニチレイ
(社)日本医師会
(社)日本環境教育フォーラム
(社)日本観光協会
(社)日本経済団体連合会
(社)日本建設業団体連合会
日本コムシス(株)
(社)日本歯科医師会
(社)日本将棋連盟
日本商工会議所
(社)日本女子プロゴルフ協会
日本生活協同組合連合会
日本製紙連合会
日本チェーンストア協会
(財)日本鳥類保護連盟
(社)日本ツーリズム産業団体連合会
日本の森を育てる木づかい円卓会議
日本ファイヤーライフグループ
(社)日本フードサービス協会
(財)日本プロスポーツ協会
(財)日本レクリエーション協会
日本労働組合総連合会
濃飛倉庫運輸(株)
(株)バンダイナムコホールディングス
日立電子サービス(株)
(株)百五銀行
(有)藤崎建築設計事務所
(株)平和堂
(財)ボーイスカウト日本連盟
(株)北海道アルバイト情報社
NPO法人緑と水の連絡会議
有限責任中間法人モア・トゥリーズ
特定非営利活動法人森づくりフォーラム
特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所
NPO法人もりふれ倶楽部
森を育む紙製飲料容器普及協議会
リコー販売(株)　群馬支社
(株)レインボー・ジャパン
労働者福祉中央協議会

平成21年3月現在(50音順)

美しい森林づくりのための行動宣言

森林は、私たちのくらしの礎です。
それは今も昔も、未来も変わりません。森林は、水をかん養します。生活に必要な基礎素材を持続的に生産します。心身を癒してくれます。伝統文化を育んできました。ふるさとの風景をつくります。多様な生き物たちのすみかです。二酸化炭素の吸収源として、地球温暖化防止の役割もクローズアップされてきました。
緑の多様な働きのすべてを市場価値で計ることはできませんが、私たちが生きていくうえで欠かすことのできない人類共有の財産です。

しかし、その緑が活力を失いかけています。
先人たちの努力により、今も国土の7割近くが森林に覆われていますが、木々の手入れ不足が目立ってきました。山村の人口が減り、森林の働き手も足りません。せっかく育てた木材も使われずに放置されています。里山の野生動物にも異変が起こっています。

どうしたら、美しい森林を再生できるのでしょう。
みんなで知恵を出し、行動を開始しなければなりません。森林づくりに励む人々に、元気を取り戻してもらいましょう。都市住民・企業も森林に目を向けましょう。生活に木を取り込み、森林のくらしを見直しましょう。
豊かな森林の恵みを引き出し、科学技術と自然が共存する新たな文化とライフスタイルを築くために、「伝えたい木の文化、残したい美しい森」を合言葉に次のような行動に取り組みたいと思います。

1　幅広い国民の参加を得ながら多様で活力のある森林づくりを進めます。
2　科学技術を生かした新たな利用開発を行うなど国産材の活用に取り組みます。
3　快適で、環境にもやさしい「木のあるくらし」「国産材を使うくらし」を広げていきます。
4　都市と山村の交流・協力に努めます。
5　森林づくりを進める地域と人々を励ますボランティア活動を促していきます。
6　多様な生物の保全と次代を担う青少年の環境教育に力を注ぎます。

平成19年6月1日　美しい森林づくり全国推進会議

「フォレスト・サポーターズ」がはじまっています。

森のための4つのアクション

- ACT 1 ふれて そだてる 森林づくり — 森にふれよう — 森で行われるイベントや活動に参加してみよう。
- ACT 2 つかって そだてる 森林づくり — 木をつかおう — 間伐材などの国産材でつくられた製品を使ってみよう。
- ACT 3 ささえて そだてる 森林づくり — 森をささえよう — 募金やボランティアをしたり、ふるさとの森を手入れして森をつくろう。
- ACT 4 暮らして そだてる 森林づくり — 森と暮らそう — 農山村の暮らしに触れたり、森で働いてみよう。

都市に暮らす人から企業・団体、そして林業に携わる人から山村に暮らす人まで、さまざまな活動に取り組んでいる人や団体などが集い、お互い手を携えることで、かけがえのない日本の森のチカラを取り戻していけるように、新たに「フォレスト・サポーターズ」がはじまりました。
森のための4つのアクションのうち一つでも実行し、あなたも森林をサポートしてください。

4つのアクションのうち、1つでも森のために実行することを誓えれば、あなたもいますぐ「フォレスト・サポーターズ」に登録できます。

「フォレスト・サポーターズ」への登録はコチラ» **http://www.mori-zukuri.jp** 企業・団体の方々も登録いただけます。

フォレスト サポーターズ
美しい森林づくり推進国民運動

※フォレスト・サポーターズは㈳国土緑化推進機構「フォレスト・サポーターズ」運営事務局で運営しています。

お問い合わせ先　「美しい森林づくり全国推進会議」事務局
東京農業大学総合研究所
特定非営利活動法人 空とぶ森
社団法人 国土緑化推進機構（担当:政策業務部・政策企画部）
〒102-0093　東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館内
http://www.b-forest.org
TEL:03-3262-8437　FAX:03-3264-3974
MAIL:toiawase@b-forest.org

間伐は みどりを育てる 森林保全
※この紙は間伐材を活用しています。